



第56回書道・絵画新春合同展 開催

Mt.レースイスキー場 2年ぶりににぎわい



第56回書道・絵画新春合同展が拠点複合施設りすたギヤラで1月24日(月)から2月13日(日)まで開催されています。出品数は計34点。書道は臨書、創作など白と黒の中から多様



書道・絵画新春合同展 色あざやかに

第56回書道・絵画新春合同展が拠点複合施設りすたギヤラで1月24日(月)から2月13日(日)まで開催されています。出品数は計34点。書道は臨書、創作など白と黒の中から多様

な表現が生み出されてきました。古典的な掛け軸を用いた作品の他に、色紙での一字書も

「初年度としてはまずまず」 夕張リゾート 鄭剣豪社長



夕張リゾートオペレーション(株) 代表取締役社長 鄭 剣豪氏 (社のホームページより)

…1月26日、鄭剣豪社長にお話を伺いました…

「2年ぶりのオープンとなったマウントレースイスキー場は、一番多い日には1300人近くが利用。その後も利用者が1000人を超える日もあり、再オープンの初年度としてはコロナ禍の中で、まずまず順調と考えています。」

ホテルレースイもできれば今年中にオープンさせたい。スーパーパコ湖を含め、夕張の豊かな自然は北海道共通の資源でもあり、市外や海外の力を集めて、観光を盛り上げていきたい。先々には市民の皆さんとの交流も深めていきたいです。」



30(日)小雪の中撮影に行くと、2年ぶりにたくさんの親子連れでにぎわっていました。



絵画では 春を思わせる夕張岳

の風景や干支、花などを水彩、油彩、それぞれを持ち味を生かしたタッチで表現。半世紀を超えて夕張の文化が継承されています。春色の色彩あふれる合同展に出かけてみませんか。





春を呼ぶ
作品ずらり

くずさんの
夕張歴史散歩(172)

石炭博物館摸擬坑の火災(番外編⑦)
石炭の搬出・輸送

地中深くにある石炭を掘りだす方法は、すでに述べたように「つるはし」一丁のタヌキ掘りから「コールピック」によるロング探炭に、また支柱も木柱から鉄柱に、「カップ」から「自走枠」と日々進化していきます。

掘っただけではただの石

掘った石炭は、切羽から坑外に搬出し、商品として売買され消費されて初めて燃える石、黒ダイヤとしての真価を発揮します。

そのために「輸送」が大きな役割を果たします。夕張でも幌内でも、開坑と同時に鉄道が敷設されたのも、当然でした。幌内と小樽間。夕張から室蘭へと北海道開拓と同時に、線路は港へと延びていきます。D51と愛称された機関車が、「セキ」(石炭専用)と呼ばれる貨車30両から40両も引っ張る姿は、最盛期の夕張の雄姿でもありました。

(前号の補足)

安全灯の充電盤に切なる願い

挿入した写真は、1981年(昭和56)10月16日、夕張新炭鉱での重大事故のさい未出坑の父に手向けて、息子さんの願いの充電盤です。
(関次男氏撮影)

※添付されたメモには「お父さん早く帰ってきてください。」と読み取れます。

松橋ちはる かけある記
党道委員会国政相談室長
松橋 ちはる

個人事業主の声

函館・北斗・森町・八雲4市町を、2日間かけてキラパンをおこないました。

函館・朝市を富山悦子市議、本間勝美党函館地区副委員長と訪問。蔓延防止等重点措置が発表され、少しずつ戻っていた観光客がパタリと来なくなったと切実な声を聞きました。乾物店の方は「飲食店は休めば支援金が出るかもしれないけど、食材を卸している業者などのことも考えてほしい、みんな苦しい」と話します。30年以上経営してきた方は「赤字でも商売は続けていくしかない」と苦しい胸の内を話しました。家族経営で鮮魚店を営む方は「コロナ感染の出口が見えず商売のモチベーションも下がりがっばなし。支援金の申請はもっと簡単にして少ない金額でもいいから継続して出してほしい」と話されました。多くの事業者は『事業復活支援金』は持続化給付金の半額程度にしかならず事業者支援とは名ばかりです。

屋に北斗市の前田治市議と立ち寄ったラーメン屋の店主は元々、19時で閉店することで支援金の対象になりません。「同じように店を開け客が減っているのに、20時までやってないからと支援金がもらえないなんておかしいよ」「支援金の条件が50%減っていないけど、売上が半分も減ったら商売なんてやっていけないよ」と怒りの声。地元を根を張り地域経済を支えてきた中小業者・個人事業主を助けるというのなら、申請要件を緩和して幅広く支援金が届くよう見直していくこそ国の仕事ではないでしょうか。